

## 令和元年度 第2回鶴見・あいねっと(鶴見区地域福祉保健計画)推進委員会 議事要旨

日時:令和2年1月31日(金)15:00~17:00

場所:鶴見区福祉保健活動拠点多目的室

出席者:杉浦委員長・八森副委員長

押山委員、加藤委員、向井代理委員(烏田委員代理)、川合委員、高橋委員、西澤委員、  
福井委員、増子委員、渡邊委員

事務局:(区役所)

福祉保健センター長、福祉保健センター担当部長、福祉保健課長、高齢・障害支援課長、  
生活支援課長、地域力推進担当課長、事業企画担当係長、福祉保健課職員

(区社協)

事務局長・事務局次長・職員

### 1 開会

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

### 2 センター長挨拶

### 3 議事

#### (1)令和元年度鶴見・あいねっと推進フォーラムについて (説明:区社協事務局次長)

○資料 1「鶴見・あいねっと推進フォーラム案内チラシ」および資料 2「令和元年度のまとめ冊子(案)」をもとに、今年度は企画会議を行わず、事務局にて検討した鶴見あいねっと・推進フォーラムの企画内容等について、説明・提案を行った。

また、「令和元年度まとめ冊子(案)」に掲載されている地区別の活動について矢向、潮田中央、寺尾地区の3地区を取り上げて紹介した。

矢向地区 :地区フォーラムでの継続した話し合い

潮田中央地区:話し合いをもとにしたイベントの開催(うしおだ健康フェスタ)

寺尾地区 :話し合いをもとに啓発媒体を作成(無事ですシール)

(進行役)

事務局からの説明に対して、何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

→特になし。

#### (2)第4期区計画策定に向けた検討状況について (説明:事業企画担当係長)

○資料 3「第4期鶴見・あいねっと計画策定検討のスケジュール」をもとに説明。

第1回推進委員会後に、計画策定検討プロジェクトを2回開催した。1回目の計画策定検討プロジェクトでは、第3期区計画の振り返り、2回目は第4期区計画の方向性や行動目標を中心に検討していただいた。

本日は、計画策定検討プロジェクトで検討した報告を行う。

また、今後のスケジュールとしては、令和2年6月に第3回計画策定検討プロジェクトを開催し、第4期区計画の具体的な取り組み内容について検討を行い、7月に予定している推進委員会で共有する。9月の第4回計画策定検討プロジェクトで素案・地区別計画について検討し、12月の第5回計画策定検討プロジェクトで第4期区計画の完成版・推進方法について検討していく予定。

○資料4「第3期鶴見・あいねつと推進の柱ごとの取組と第4期計画に向けた課題」をもとに、第3期区計画推進の柱①～③に対する、柱ごとの地域・区役所・区社協・地域ケアプラザの取組と、第4期区計画に引き継ぐ課題について説明。

○資料5「調査・統計関係データまとめ」をもとに、第4期区計画策定に向けた区民アンケートや関係機関向けアンケート等の調査結果や統計データについて説明。

○資料6「第4期鶴見・あいねつとの方角性(案)」および資料7「第4期鶴見・あいねつとの方角性(案)の注釈(ポイント)付き」をもとに、第4期区計画の方角性をどのような経緯で検討したかということの説明。

(方角性のポイント)

・これまで積み重ねてきた活動を尊重しながら、すべての地域活動に通ずる要素を新たに『推進の土台』として新たに取り入れた。(人材/場・機会/相互理解)

土台の3つの要素は、推進の柱①～③に対して横断的に取り組む。

・どのような人でも、支援が必要になる可能性はあるため、「必要な人」という考え方ではなく「必要なとき」という共通認識を持てるように表現を変更した。

その他、議論を重ねてきた内容も膨大であり、配布資料をもとに議事3にて意見交換を行うため、資料を確認していただく時間を設けてはどうか。

(進行役)

この後、方角性(案)について、もう少しこういう視点・項目を加えてはどうかという意見や感想、気づいた点等をお話しいただければと思います。ここで5分ほど資料確認の時間を取ります。

### (3)話し合い <第4期区計画の方角性について>

(進行役)

では、ここから委員の皆さんと意見交換の時間にしたいと思います。

(委員)

見やすく、わかりやすくまとまっている。柱②の「必要なときに」という表現は、理解が深まる表現だと思う。

(委員)

「必要なときに」という言葉について。民生委員を退任したが、新聞配達業者から新聞がたまっている家について情報提供を受けた。様子を見に行くと応答がないため、区役所に連絡し、通報をしたところ室内で亡くなっていたということがあった。地域だけでは対応が難しいこともある。そのため、地域内だけではなく新聞配達業者等、外部(多様な主体)との情報共有や、連携しやすいような体制をつくることも必要だと思う。

(進行役)

柱①の『つながりのある地域づくり』には「企業との連携」が入っており、特に生活産業との連携は必須となる。地域や企業側にも、連携の重要性を第4期計画の中でより伝えていけるとよい。

(委員)

『推進の土台』に「障害・認知症など」という表現が入っているが、家族会の立場としては「精神障害」も表記してもらいたい。また、先日農水省元事務次官の事件もあったが、「必要なとき」とはどう発見するのか。その体制をどうつくっていくのか、ということも検討してもらいたい。精神疾患は顕在化していないケースも多いため、潜在的な問題についてどうしていくのか。そのあたりもしっかり検討してもらいたい。

(進行役)

理解が進んだ社会だからこそ「精神障害」を計画の中でも表記していくべきという意見。表記等についてはこの場での検討が難しいため、また事務局で検討してもらいたい。

(委員)

保健活動推進員としては、推進の柱③が大きく関係している。地域住民が明るく楽しく過ごせるように、体操や講座の企画・実施をしている。講師派遣等の面では、様々な関係機関に協力していただいている。また、推進の柱①にも関係する、地域のお茶のみ会なども保健活動推進員として推進している。特定検診の受診勧奨にも取り組んでいる。

(委員)

調査データから、「50代で地域との関わりが落ち込む」という説明があったが、まさにその通りだと感じている。子どもをきっかけに子どもの親の若い世代に関わってもらえるようにしたり、いきなり町会の役員を頼まず、参加できるものに協力してもらえようとするという工夫等が必要だと思う。また矢向地区では、潮田地区を参考に、町会ごとの祭りの法被を作成して神輿を担いでもらった。地域にどう参画してもらうか、ということが重要。高齢者については、災害時要援護者支援事業の一環として見守りが進められており、いかに地域全体で協力しながら取り組みを進められるかだと感じる。

(進行役)

具体的なアプローチの方法まで意見をいただいた。今回の『土台』と『柱』は、具体的に計画を進めていく時に、想起できるような見せ方になっている。

(委員)

『土台』と『柱』が、すべてがつながっているようで、よく整理されていると思う。ネットワークがもっと目に見える形で展開されるように、進んでいてもらいたい。また、ケアプラザからの委員に質問するが、地域ケアプラザのサブコーディネーターは、地域と密接に関わっている職員という認識でよいか。

(委員)

地域ケアプラザによって業務、特色が異なるため、サブコーディネーターが担う業務も様々である。共通しているのは地域ケアプラザに来所された方にとって最初の窓口となっているため、地域の方と接する入り口の役割があると認識している。

(委員)

自身の団体活動で気づいたことは、地域ケアプラザの職員につなげるなどしている。地域の方をサブコーディネーターのさらにサブコーディネーターとして巻き込んでいく意識で、地域の中にコーディネートできる人材を増やしていくことが必要だと思う。また、地区ごとに設定しているキャッチフレーズを地域でもっと目に見える形にしたほうがよいと思う。

(進行役)

仕組みづくりを可視化すると、もっとわかりやすいという意見。どんな時に介入するのか、具体的にどうするのか等、各委員から次の段階に踏み込んだ意見が続いている。

(委員)

地域では、「あいねっと」が十分に推進されているとは思えず、なんとなく「福祉の集まり」というのが現実だと感じている。区老人クラブ連合会では、先日、シルバーフェスタを開催した。地域づくり、地域活性化につながるイベントであり、またあいねっとの目的にもつながるものだと思う。

単位老人クラブでも、居場所たまり場づくり、健康づくりに取り組んでおり、新しい取り組みも増えているため、シニアマップも更新している。学校でもアクティブラーニングが取り組まれているが、シニア層も主体的に地域活動に取り組めるように、働きかけていきたい。

「あいねっと」については、分かりにくい点もあるが、身近なところから取り組んでいきたい。老人クラブでは、認知症サポーター養成に取り組んでおり、これからも継続していきたい。

(進行役)

「あいねっと」を区民に浸透させるという点では、老人クラブで PR 手法を考えてみることも1つの方法と感じた。

(委員)

推進の柱それぞれで提示されている内容については、重要性を認識している。「様々な世代の方が気軽に集える場」が求められているという話もあり、地域ケアプラザ、コミュニティハウスは、地域活動の拠点として施設運営、事業を進めていきたい。

(委員)

ふらっと一むでは参加者が少ないという話を聞かすが、まめっこ広場では参加者が 30 組を超える。まめっこ広場の特徴は、出入り自由でプログラムへの参加も自由。違いを考えると、ただ「気兼ねなくただらだらできる」ということが子育て中の方には、求められているのかと思う。その中でつながりができ広がっていくように感じる。

「必要なときに支援が届く」ということについては、乳幼児一時預かりのニーズは非常に高い。1日 80 名ほどの申し込みがあり、毎日何十人も断っている状況で、稼働率が 120%である。

「担い手」については、現在乳幼児一時預かりのスタッフのうち、以前預ける側だった母親が半数を超えた。今、預けている母親もいつか貢献したいという思いを持っており、良い循環ができている。鶴見区の特徴と認識して、区独自の取り組みも検討してもらいたい。

(進行役)

すべての活動に当てはまるとは限らないが、プログラムベースの活動と自由な場という運営方法や担い手の循環など、他の活動にも活用できる要素があった。また、区独自の取り組みもあると、鶴見区がより良くなるのではという意見をいただいた。

(委員)

外国につながる人の支援についても提起しておきたい。外国につながる子どもへ日本語を教えることができる先生が少ないと思う。鶴見区は外国につながる子どもが多いため、今後もぜひ考えていただきたい。

(進行役)

外国人に対する支援等もっと踏み込んだ内容をという意見をいただいた。なお、方向性案については了解をいただいたという認識を得た。ただし、「可視化」、「具体的にどうしていくのか」ということが 4 期計画の大きな課題であり、また、生活産業分野との連携も大きなテーマとなると思う。

#### (4)第 4 期地区別計画策定に向けた検討状況について

○資料 8「地区別計画の策定状況概要」に基づき、各地区での第 4 期地区別計画策定に向けた検討状況について説明。(説明:区社協職員)

○資料 9「地区別計画フォーマット(案)」に基づき、これまでのものから変更した地区別計画フォーマット(案)について説明。(説明:福祉保健課職員)

(第 3 期地区別計画フォーマットからの変更点)

- ・掲載項目の順序を変更。
- ・地区別計画の掲載内容を変更。
- ・区計画との関連性を示す図を変更。

(進行役)

事務局からの説明に対して、ご意見等ありますでしょうか。

→特になし。

#### (5)その他

(進行役)

以上で予定していた議事については終わりとなりますが、みなさんから、それぞれの団体のお知らせ等何かございますか。

(委員)

2 月 21 日(金)18 時～下末吉小学校にて、“みまーも”講演会を開催する。

## 4 閉会

熱心なご討議ありがとうございました。最後に事務局から連絡事項等あればお願いします。

(事業企画担当係長)

第 4 期計画策定の今後のスケジュールについて、次回の推進委員会は、令和 2 年 7 月頃を予定している。また、6 月には計画策定検討プロジェクトを予定している。

(進行役)

では、本日の推進委員会はこれで閉会します。委員の皆様ありがとうございました

次回の予定:令和 2 年度第 1 回鶴見・あいねつと推進委員会日時:令和 2 年 7 月頃 (時間・場所は未定)